

2021年4月4日 大井バプテスト教会 礼拝説教

説教題「見つめる先に」 マタイによる福音書 27章 54-60節 牧師 広木 愛

「54:百人隊長や一緒にイエスの見張りをしていた人たちは、地震やいろいろの出来事を見て、非常に恐れ、「本当に、この人は神の子だった」と言った。55:またそこでは、大勢の婦人たちが遠くから見守っていた。この婦人たちは、ガリラヤからイエスに従って来て世話をしていた人々である。56:その中には、マグダラのマリア、ヤコブとヨセフの母マリア、ゼベダイの子らの母がいた。」マタイ 27:54-56

イエスさまの復活を今年ほど待ち望む年はないのではないかと考えています。これまでにもあった様々な社会の出来事に加えて、コロナウィルスの動向、世界に目を向けると、オリンピック、ミャンマーでの国軍による一般市民への弾圧など、いったいこれからどうなっていくのか、全く先が見えない現実の中で、オンラインではありますが、こうしてイースターを共に迎えられることを神さまに感謝しています。これまで加藤先生がずっとマタイによる福音書からメッセージを語っておられて、受難週も、マタイと詩編を共に読んでいきました。そこで私の心に留まったのは、聖書の中に描かれているイエスさまを見つめる人たちの姿です。

イエスさまが十字架で殺された姿を見つめた人たちがいたと聖書は記しています。一緒に旅をしていた男弟子たちもどこかで見っていたのかもしれませんが、残念ながらその描写はありません。54節から読んでみると、百人隊長、犯罪人とされたイエスさまを見張っていた人、またマグダラのマリアやヤコブとヨセフの母マリア、ゼベダイの子らの母をはじめ大勢の婦人たちが、イエスさまが死んでいくその過程を見つめ続けていたと聖書には書かれています。ここで出てくるマグダラのマリアと、もう一人のマリアは、イエスさまが埋葬された後も、そのお墓を見つめ続けたとあるのです。イエスさまの死なんて望んでいなかったのはイエスさまの死を見つめた人たちも弟子たちも同じだったのだらうと思います。それでもなぜこの女性たちは、イエスさまを見つめていたのでしょうか。なぜ、埋葬された後もなお、イエスさまを見つめ続けていたのでしょうか。そんな問いが私の中に与えられました。

そして、わたしの心に留まっているもう一人の登場人物がいます。57節から出てくるアリマタヤ出身のヨセフという人です。マルコによる福音書15章43節以降と合わせて読むと、このようにあります。

43:アリマタヤ出身で身分の高い議員ヨセフが来て、勇気を出してピラトのところへ

行き、イエスの遺体を渡してくれるようにと願い出た。この人も神の国を待ち望んでいたのである。44:ピラトは、イエスがもう死んでしまったのかと不思議に思い、百人隊長を呼び寄せて、既に死んだかどうかを尋ねた。45:そして、百人隊長に確かめたうえ、遺体をヨセフに下げ渡した。46:ヨセフは亜麻布を買い、イエスを十字架から降ろしてその布で巻き、岩を掘って作った墓の中に納め、墓の入り口には石を転がしておいた。

このヨセフは、勇気をだして、ピラトに直談判にいらっているということです。いくらイエスさまの弟子だからといって、ピラトに直接交渉すれば、犯罪人イエスの弟子だ！とばれて、ヨセフの命も危うくなるにもかかわらず、それでも、イエスさまの亡骸を受け取ることを選び取ったのだらうと思います。この選び取りをする勇氣はどこからでてきたのでしょうか。

イエスさまの死を見つめ続けた女性たち、また、仕事で仕方なく、イエスさまの十字架刑を見届けなければならなかった百人隊長たち、そして、自分の命が危険になるかもしれないけれどもイエスさまの亡骸を受け取ったヨセフという人。彼女たち、彼らの行動をみると、わたしたちが誰とつながっているのかが示されているのだらうと思わされます。

イエスさまの死を見つめた女性たち、またローマの百人隊長たち、そしてヨセフがイエスさまの死を通して見つめたものは、神さまの救いの出来事です。福音書には、イエスさまがなくなったときに起こった様々な出来事を見て、わざわざローマの百人隊長やその見張りの人たちに「本当に、この人は神の子だった」という言葉を語らせているのです。イエスさまの死を目の当たりにして、ローマ兵たちが見たものは、神さまだったのだらうと思います。イエスさまの死に連帯をして、神さまとつながることができるのだらうと思うのです。死しかもう目の前にないと思う状況のその先に、イエスさまの復活があるということ。それは、神さまがすべての命に責任をもってくださっているということの証しのだらうと思います。

神さまがいたずらにつくられた命ではなく、責任をもってその命をおつくりになられた。その歩みがどんなものであったとしても、その先には、必ず復活のイエスさまがわたしたちの命に連帯してくださっているのだらうと思います。

先の見えない 2021 年度ですが、今見えているものは、不安。。かもしれません。けれどもその先にあるものは、イエスさまがこのイースターにもたらしてくださった希望のだらうと思います。そのことを覚えて、このイースターから始まる新しい年度を過ごしていきたいと願っています。